

消防組の発足から公設消防

明治27年(1894年)2月、勅令及び省令によって消防組規則が制定されて以来、各町村は道庁長官の認可により、公設消防組設置が義務づけられていた。当時は戸長制度下で、役場の人員や収入が少なく、防災・消防などの行政組織にまで手が回らず、火災の続発や延焼を嘆いた。

明治44年(1911年)5月、登別温泉青年会が運動会の余興に、登別駅から木製ポンプを借りて放水訓練を披露した。これが組織化の動機となり、青年会の中に消防部が置かれた。しかし、消防器具もなく、服装もまちまちであり、存在も知られなかったため、寄付金を集め大正2年(1913年)に腕用ポンプを1台260円(230万円)で買入れ、正式に発足し、他の地域に大きな刺激を与えた。そうしているなかにも、山火事が続き大正6年(1917年)には、来馬山ほか数カ所が烈風にあおられ焼失し、青年団をはじめ住民が出動したものの、100ヘクタールを焼失した。これを経験した人々が、各地区ごとの消防組織を一本化した責任体制にしようという声が挙がったのは当然であった。


すなわち、大正2年の登別温泉・登別を始めとして、幌別・鷺別・幌別鉦山と相次いで地域ごとに青年会や私設消防組織が結成され、それらを村一本の協力体制下にしようと、大正7年(1918年)4月、統合して幌別村消防組を開設した。230人の組員と腕用ポンプ6台、ガソリンポンプ1台を配置しての公設消防の発足である。

(市史ふるさと登別より)



消防組発足当時 旧温泉小学校(旧国立病院)




年 代	あ ゆ み	出 来 事
1913 (大正 2年)	登別温泉、登別に青年会消防部を発足 登別温泉地区において市原式腕用ポンプ1台購入	
1914 (大正 3年)	登別地区において市原式腕用ポンプ1台購入 幌別、鷺別地区に私設消防組を設立	・第一次世界大戦勃発
1916 (大正 5年)	鉾山地区に私設消防組を結成 鉾山において市原式腕用ポンプ2台購入	・登別温泉に電灯がつく
1918 (大正 7年)	登別温泉、登別、幌別、鷺別、鉾山の各消防組を統合し幌別村消防組を設立 鷺別地区において市原式腕用ポンプ1台購入	・登別—登別温泉間に蒸気機関車の軽便鉄道開通 ・第一次世界大戦終わる
1919 (大正 8年)	登別駅前通りで火災、36戸焼失 登別温泉地区において手挽ガソリンポンプ1台、市原式腕用ポンプ1台購入 幌別沖に陽天丸(7,100t)座礁沈没、乗組員の救助に当たる	・幌別村に2級町村制施行される ・幌別村第1回村議会議員選挙
1920 (大正 9年)	登別地区においてガソリンポンプ1台購入	・大正9年国勢調査 人 口 7,001人 世帯数 1,447
1923 (大正12年)	登別温泉消防組、北海道庁長官より「金馬簾」授与される	・関東地方に大地震(M7.9)火災・津波発生死者9万余人・行方不明4万人・全壊焼失46万余戸
1924 (大正13年)	富浦地区において腕用ポンプ1台購入 幌別消防組、北海道庁長官より「金馬簾」授与される	・幌別鉾山で坑内火災
1925 (大正14年)	クッタラ湖付近で山火事 保安林30㍓焼失	・大正14年国勢調査 人 口 6,951人 世帯数 1,315
1926 (大正15年)	鷺別地区において腕用ポンプ1台購入	・十勝岳大噴火 (死者・行方不明144人) ・「昭和」と改元
1927 (昭和 2年)	幌別地区において室蘭消防より中島式手挽ガソリンポンプ1台を譲り受ける	
1928 (昭和 3年)	幌別村消防組、訓練技能優秀につき北海道庁長官より「金馬簾」を授与される	


年 代	あ ゆ み	出 来 事
1930 (昭和 5年)	鷺別駅前で火災、39棟55戸焼失	<ul style="list-style-type: none"> 昭和5年国勢調査 人 口 7,090人 世帯数 1,356
1931 (昭和 6年)	登別温泉地区においてT型フォード消防ポンプ自動車1台購入  (1924年式T型フォード消防ポンプ自動車)	<ul style="list-style-type: none"> 登別温泉観光協会発足
1934 (昭和 9年)	大豪雨によりクスリサンベツ川氾濫 橋梁5ヶ所、倒壊浸水13棟	<ul style="list-style-type: none"> 函館大火発生 罹災戸数 2万4千戸 死者・行方不明 2千7百人 室戸台風襲来(全壊流失4万戸、死者行方不明3千人)
1935 (昭和10年)		<ul style="list-style-type: none"> 昭和10年国勢調査 人 口 7,392人 世帯数 1,377
1936 (昭和11年)	幌別村消防組、防ぎょ活動優秀につき北海道庁長官より、再度「金馬簾」を授与される	<ul style="list-style-type: none"> 第2次世界大戦始まる
1939 (昭和14年)	警防団令により消防組を改組し幌別村警防団となる 幌別、登別、登別温泉、鷺別、鉦山の5分団制とし団員370人	
1940 (昭和15年)	鷺別郵便局裏で火災、44戸焼失	<ul style="list-style-type: none"> 昭和15年国勢調査 人 口 10,458人 世帯数 1,903
1942 (昭和17年)	鷺別郵便局裏で大火災、全焼110戸 来馬に日本製鉄(株)の社宅1,400余戸を建設され消防施設として防火水槽21基、消火栓25基、トヨタ消防ポンプ自動車1台、手挽ガソリンポンプ1台を配置し社員9人を充て私設消防を組織	<ul style="list-style-type: none"> 幌別森林組合設立
1944 (昭和19年)		<ul style="list-style-type: none"> 壮瞥村9万坪一帯の麦畑で噴煙をあげて大爆発(昭和新山)
1945 (昭和20年)	室蘭市輪西地区に艦砲射撃による集中攻撃があり負傷者救助のため連日出動	<ul style="list-style-type: none"> 役場庁舎新設移転 第2次世界大戦終結

年 代	あ ゆ み	出 来 事
1947 (昭和22年)	<p>消防団令により警防団を廃止し幌別村消防団発足、消防団条例制定</p> <p>来馬地区に来馬分団を新設。幌別、登別、登別温泉、鷺別、鉦山の6分団制で団員347人 (消防ポンプ自動車2台、ガソリンポンプ4台、腕用ポンプ7台)</p> <p>来馬分団に日本製鉄(株)においてトヨタ消防ポンプ自動車(平和ロータリー)1台を配置</p> <p>登別温泉地区においてダッチ消防ポンプ自動車を購入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体消防発足 ・公職選挙法施行により初代公選村長誕生
1949 (昭和24年)	<p>幌別村消防本部を役場庁舎内に設置</p> <p>幌別村消防本部条例、幌別村消防団条例、幌別村消防団規則及び消防法第3章に基づく危険物取締条例を制定、本部職員6人、団員347人とする</p>	
1950 (昭和25年)	<p>登別温泉中学校に少年消防クラブを結成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登別漁港着工 ・昭和25年国勢調査 人 口 20,121人 世帯数 4,030
1951 (昭和26年)	<p>町制施行により幌別町消防本部となる</p> <p>鷺別劇場及び公衆浴場が全焼</p> <p>第3回北海道消防大会を登別温泉で開催</p> <p>水槽付消防ポンプ自動車を幌別分団に配置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町制施行される ・人 口 21,043人
1952 (昭和27年)	<p>幌別町消防表彰規則を制定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・十勝沖地震発生 死者30人家屋被害4万戸
1953 (昭和28年)	<p>消防団第1回消防演習を来馬地区で実施</p> <div data-bbox="359 1422 1133 1904" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">(昭和28年 消防出初式旧役場前)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保安隊開隊式举行

年 代	あ ゆ み	出 来 事
1954 (昭和29年)	<p>鉾山従業員転出に伴い鉾山分団を廃止</p> <p>幌別町消防団条例、同規則全文改正、団員定数230人とする</p> <p>富浦地区に富浦分団を新設</p> <p>甲種制服による被服整備完了</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・台風15号で洞爺丸沈没 (死者千人以上) ・天皇・皇后陛下行幸啓 (登別グランドホテルご宿泊)
1955 (昭和30年)	<p>幌別小学校全焼 (3,804 m²)</p> <p>幌別町消防団、日本消防協会より「竿頭綬」を受賞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和30年国勢調査 人 口 24,787人 世帯数 4,870
1956 (昭和31年)	<p>幌別町消防表彰規則を廃止、幌別町消防表彰条例、同規則を制定</p> <p>議会議決にて幌別町消防本部、同条例を廃止</p> <p>幌別町消防団条例を全文改正</p> <p>富士製鉄(株)よりトヨタ消防ポンプ自動車1台の寄贈を受け、幌別分団に配置</p> <p>登別温泉中学校少年消防クラブ、消防庁長官より「竿頭綬」を受賞</p>	
1957 (昭和32年)	<p>消防団長、堅田 久次郎氏「黄綬褒章」を授与される</p> <p>登別温泉消防庁舎新築</p> <p>来馬、富士鉄寮で火災、2棟31戸焼失</p> <p>幌別小学校前で火災、12棟19戸焼失</p> <p>幌別分団第2車庫が住民の寄附金により建設</p> <p>消防団長、堅田 久次郎氏第1回「町功労者表彰」を受賞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登別温泉100年祭挙行 ・国道36号線舗装着手
1958 (昭和33年)	<p>機関員3人を新規採用、登別、登別温泉、鷺別に各1人配置</p> <p>登別温泉分団長、秋吉 勇雄氏「黄綬褒章」を授与される</p> <p>北海道消防協会胆振地方支部総合訓練大会を町営グラウンドで開催</p> <p>登別温泉分団長、秋吉 勇雄氏第2回「町功労者表彰」を受賞</p> <p>鷺別消防後援会より、木造平屋建(57 m²)の寄贈を受ける</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・皇太子殿下御來泉 ・台風17号発生 (幌別市街地が被害続出)
1959 (昭和34年)	<p>登別温泉が建築基準法第22条による区域の指定を受ける</p> <p>字来馬28番地、富士鉄寮が火災1棟12戸焼失</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町営国民宿舎オロフレ荘開館 ・伊勢湾台風高波襲来 (死者5,041人)
1960 (昭和35年)	<p>消防後援会より次の建物の寄贈を受ける</p> <p>幌別分団庁舎 (木造平屋建 97 m²)</p> <p>登別分団庁舎 (木造二階建 138 m²)</p> <p>富浦分団庁舎 (木造平屋建 24 m²)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幌別町商工会発足 ・昭和35年国勢調査 人 口 29,100人 世帯数 6,228

年 代	あ ゆ み	出 来 事
<p>1960 (昭和35年)</p>	<p>室蘭信用金庫より水槽付消防ポンプ自動車1台の寄贈幌別分団に配置</p>  <p>消防団条例一部改正、特殊勤務団員4人を新規採用し登別分団1人、登別温泉分団2人、鶯別分団1人を配置</p>	
<p>1961 (昭和36年)</p>	<p>消防団条例及び同規則を一部改正し常勤団員制度を設ける 非常勤団員191人、常勤団員9人とし、常勤団員を各分団に配置する 幌別、千歳、来馬、川上、登別が建築基準法第22条による区域の指定を受ける 幌別本町で火災、6棟12戸焼失 集中豪雨による大水害発生(死者4人、行方不明7人、全壊20戸、家屋流失27戸、半壊17戸、床上浸水1,009戸) 登別温泉で火災、7棟8戸焼失(1,280㎡焼失) 消防発足50周年記念式典を挙げる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町名を登別町に変更 ・役場庁舎落成 ・開基90周年挙行 ・天皇・皇后陛下行幸啓 (登別グランドホテルにご宿泊) ・町営国際観光会館落成
<p>1962 (昭和37年)</p>	<p>来馬分団登別町長より「竿頭綬」を受賞</p>	
<p>1963 (昭和38年)</p>	<p>消防機構体制強化のため登別町消防本部を設置 登別町消防本部条例制定、登別町火災予防条例、同規則制定 消防本部庁舎・中央公民館合同庁舎新築</p>  <p style="text-align: center;">車庫前</p>  <p style="text-align: center;">消防庁舎落成記念</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町立登別高等学校開校 ・カルルススキー場完成
<p>1964 (昭和39年)</p>	<p>日本赤十字社より救急自動車が配車され救急業務を開始 登別温泉第一滝本館で火災(4,223㎡焼失、14人負傷) 上登別国有林で火災(524㎡焼失) 北海道曹達幌別工場で塩素ガス流出、中毒患者の救助に当たる 北海道防災総合訓練演習を幌別河口で実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回登別温泉地獄祭開催

年 代	あ ゆ み	出 来 事
<p>1965 (昭和40年)</p>	<p>政令指定により登別町消防本部及び消防署の設置等に関する条例制定 登別町消防署を設置、分遣所3（登別温泉、登別、鷺別）、派出所2（幌別、来馬）消防本部組織を2係制（総務・消防）とし、職員4人を配置、消防署員25人、団員定数を191人とする 室蘭市と消防相互応援協定を締結 超短波無線電話装置を新設 富浦婦人消防クラブが発足 第18回北海道消防大会を幌別で開催する 室蘭日石埠頭でタンカー爆発炎上、連日応援に当たる</p>  <p style="text-align: center;">室蘭港タンカー火災</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生センター落成 ・幌別、鷺別が電話自動化 ・昭和40年国勢調査 人口 39,101人 世帯数 9,484 ・紅葉大橋着工
<p>1966 (昭和41年)</p>	<p>登別消防庁舎新築、 消防団条例一部改正団員数192人</p> 	
<p>1967 (昭和42年)</p>	<p>消防本部に予防係を新設、総務、消防、予防の3係制とする 名誉消防団長、堅田 久次郎氏「勲五等双光旭日章」を授与される 消防団長、秋吉 勇雄氏「勲六等单光旭日章」を授与される 鷺別消防庁舎新築</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・給食センター開設 ・幌別ダム完成
<p>1968 (昭和43年)</p>	<p>名誉消防団長、堅田 久次郎氏「町消防功労章」を受賞 北海道消防協会胆振地方支部消防訓練大会開催 十勝沖地震、M7.8室蘭地方震度4、(軽傷者2人、半壊3戸、一部損壊30戸)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開基100周年記念式典挙行 ・陸上競技場3種公認 ・十勝沖地震
<p>1969 (昭和44年)</p>	<p>機構改革により登別温泉、鷺別の両分遣所をそれぞれ出張所に昇格 登別温泉消防庁舎新築 (鉄筋コンクリート3階建700.25㎡) 50mmホースを採用 白老町と消防相互応援協定を締結 登別町消防団、北海道知事より「竿頭綬」を受賞</p> 	

年 代	あ ゆ み	出 来 事
1970 (昭和45年)	市制施行により登別市消防本部となる 登別温泉出張所職員待機宿舍新築 富浦婦人消防クラブ「消防庁長官表彰」を受賞 救急業務政令指定都市となる 日本損害保険協会より消防ポンプ自動車（A1級）の寄贈を受ける 幌別町77番地で火災、一家5人焼死 幌別分団庁舎を新築（木造モルタル一部ブロック平屋建132㎡） 用途地域の指定（道告示）により商業、工業、準工業、住居の4地域に指定 富士製鉄（株）より来馬分団庁舎（木造平屋建149㎡）の寄贈を受ける	<ul style="list-style-type: none"> ・市制施行により登別市役所となる ・字を廃止、町とする ・昭和45年国勢調査 人 口 46,526人 世帯数 12,029
1971 (昭和46年)	化学消防ポンプ自動車購入 本署に配置	
1972 (昭和47年)	富浦分団庁舎新築（木造モルタル2階建56.70㎡） 富士製鉄（株）より消火栓26基、防火水槽2基の寄贈を受ける 富浦婦人消防クラブ「北海道消防協会長表彰」を受賞	
1973 (昭和48年)	登別市消防団、日本消防協会より「表彰旗」を受賞 消防団長、秋吉 勇雄氏殉職 無線周波数の狭帯域化に伴い無線機を更新 機構改革により登別分遣所が出張所に昇格 胆振地方消防総合訓練大会において登別温泉分団が第1種第1位に入賞	<ul style="list-style-type: none"> ・室蘭・登別急病センター開設 ・陸上競技場2種公認
1974 (昭和49年)	機構改革により消防本部に管理係を新設、4係制とする 消防関係諸規程を整備 消防本部次長、大西 直市氏「市功労者表彰」を受賞	<ul style="list-style-type: none"> ・労働福祉センター落成 ・町名地番改正
1975 (昭和50年)	消防署上鷺別派出所を開設 胆振地方消防総合訓練大会において登別温泉分団が第1種第1位に入賞 消防団が北海道消防操法訓練大会に出場	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和50年国勢調査 人 口 50,885人 世帯数 14,851
1976 (昭和51年)	消防団長、寺田 虎蔵氏「紺綬褒章」を授与される 消防長、後藤 四郎氏「市功労者表彰」を受賞	

年 代	あ ゆ み	出 来 事
1977 (昭和52年)	胆振地方消防総合訓練大会を開催、登別市総合優勝 有珠山噴火、市内一帯に多量の降灰があり除去のため連日出動 消防本部の管理係を廃止し、消防署に救急隊を新設 指揮車を救急車に改造、登別温泉出張所へ配置 来馬派出所を富士派出所に、上鷲別派出所を美園派出所に改称 中登別町、鉾山町に消防器具置場を新設（木造平屋建 29,41 m ² ）	<ul style="list-style-type: none"> ・有珠山噴火 ・職業訓練センター完成
1978 (昭和53年)	元登別温泉副分団長、高橋 謙一氏「市功労者表彰」受賞	<ul style="list-style-type: none"> ・婦人センター落成
1979 (昭和54年)	機構改革により消防本部を2課4係とし、消防署に支署を設け3支署、1出張所、3派出所とする 日本損害保険協会より救急自動車1台の寄贈を受け本署に配置する 名誉消防団長、堅田 久次郎氏「叙位従六位」を授与される（逝去）	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃工場落成
1980 (昭和55年)	カルルス町ホテル岩井従業員宿舎全焼（3,127 m ² 焼失） 広報車（堅田号）購入、団本部に配置 富士派出所庁舎を新築（木造モルタル平屋建 149,85 m ² ） 消防団条例一部改正、団員定数を191人とする 元消防団長、寺田 虎蔵氏「市功労者表彰」を受賞 消防100年記念大会が東京で開催 豪雨により大被害を受ける（重傷1人、軽傷5人、全壊14戸、半壊11戸、一部損壊16戸、床上浸水583戸）	<ul style="list-style-type: none"> ・市制施行10周年記念式典 挙行 ・昭和55年国勢調査 人 口 56,503人 世帯数 17,866
1981 (昭和56年)	日本赤字社道支部から救急自動車の長期貸付を受ける。 登別温泉支署に配置する。  来馬分団を富士分団、3派出所を分遣所に改称 胆振地方消防総合訓練大会 富士分団が第3種小型ポンプ操法で優勝 豪雨により大被害を受ける（一部損壊7戸、床上浸水43戸） 登別市消防団が北海道消防操法訓練大会に出場 元消防団長、寺田 虎蔵氏「勲五等瑞宝章」を授与される 元消防長、片岡 義市氏「市功労者表彰」を受賞	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料館落成 ・老人福祉センター落成 ・助役2人制となる ・登別消防後援会連合会発足

年 代	あ ゆ み	出 来 事
<p>1982 (昭和57年)</p>	<p>消防団創設70周年記念式典を挙行</p>    <p>70周年記念パレードの様子</p> <p>登別温泉分団長、大寺 常隆氏「勲六等瑞宝章」を授与され「功労者表彰」を受賞(逝去) 消防副団長、千葉 助雄氏「市功労者表彰」を受賞 浦河沖地震、M7.3、室蘭地方震度3、(軽傷1人、一部損壊3戸)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 浦河沖地震 日本電子工学院北海道専門学校開校
<p>1983 (昭和58年)</p>	<p>豪雨により大被害を受ける(降り始めてからの降雨量、508ミリ、1時間当たり最大降雨量126mm、軽傷1人、全壊4戸、半壊14戸、一部損壊12戸、床上浸水540戸) 登別大谷高等学校屋内体育館全焼(1,328㎡焼失) 富浦婦人消防クラブに日本消防協会より軽可搬ポンプの寄贈を受ける</p>	
<p>1984 (昭和59年)</p>	<p>消防署組織改革により中央支署を廃止、消防署に副署長を配置、庶務係、警防係の2係制とし登別出張所、幌別・富士分遣所を所管する。 鶯別支署庁舎新築(鉄筋コンクリート造、2階建659.46㎡) 元消防副団長、千葉 助雄氏「勲六等単光旭日章」を授与される 消防団長、鹿野 善雄氏「市功労者表彰」を受賞 第13回全国消防救助技術大会出場(名古屋市)基本泳法</p>	
<p>1985 (昭和60年)</p>	<p>火災救急指令システム、地図検索機導入 幌別分遣所庁舎を新築 (木造サイディング平屋建178.20㎡) 胆振地方消防総合訓練大会開催 (幌別小学校) 北海道防災総合訓練開催 (幌別川、ダム下河川敷)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 昭和60年国勢調査 人口 58,370人 世帯数 19,268 道央自動車道登別東IC～白老IC間開通

年 代	あ ゆ み	出 来 事
1985 (昭和60年)	副団長、堀合 喜蔵氏「市功労者表彰」を受賞 日本道路公団と救急業務に関する協定書を締結	
1986 (昭和61年)	元消防副団長、堀合 喜蔵氏「勲六等単光旭日章」を授与される(逝去) 元消防長、富山 永治氏「市功労者表彰」を受賞 消防団規則一部改正、副団長2名制になる 高速自動車国道開通に伴う救急隊増設 日本消防協会より携帯無線機10台、拡声器2台の寄贈を受ける	<ul style="list-style-type: none"> ・道央自動車道登別東IC～登別室蘭IC間開通 ・新登別大橋開通
1987 (昭和62年)	非常通報システム運用(登別温泉の旅館、ホテル)	
1988 (昭和63年)	美園町、産研きのこ園で火災(1,073㎡焼失) 胆振地方消防総合訓練大会 富士分団が第3種小型ポンプ操法で第2位に入賞 救急医療情報システム運用 富浦分団に小型動力ポンプ付積載車を購入し配置 救助工作車を購入、本署に配置	
1989 (平成 元年)	本署配置の化学消防ポンプ自動車を更新 機構改革により消防署に機械係、保安係を新設し4係とする 登別市危険物安全協会発足	<ul style="list-style-type: none"> ・はまなす国体バトミントン競技開催
1990 (平成 2年)	元消防団長、鹿野 善雄氏「勲五等瑞宝章」を授与される 札内町380、登別養鶏ファームで火災(1,512㎡焼失) 胆振地方消防訓練大会出場	<ul style="list-style-type: none"> ・平成2年国勢調査 人口 55,571人 世帯数 19,539 ・登別マリパーク「ニクス」オープン ・公共下水道一部供用開始
1991 (平成 3年)	北海道広域消防相互応援協定締結 組織強化により登別出張所に係長職2名体制とする 北海道広域消防相互応援協定に基づく申合わせ事項の締結(室蘭市、白老町、西胆振) 小型動力ポンプ付積載車を購入、登別温泉分団カルルス器具置場を併せて新築(プレハブ造平屋建15.37㎡)し配置	<ul style="list-style-type: none"> ・道央自動車道登別室蘭IC～室蘭IC開通



年 代	あ ゆ み	出 来 事
<p>1992 (平成 4年)</p>	<p>富浦婦人消防クラブに消防協会より制服20着の寄贈を受ける 胆振地方消防訓練大会出場 消防団創設80周年記念式典を挙行</p>  	<ul style="list-style-type: none"> ・登別伊達時代村オープン ・登別中国庭園「天華園」オープン
<p>1993 (平成 5年)</p>	<p>釧路沖地震、M7. 8、室蘭地方震度4 本署配置の救急車を火災調査車に改造、準高規格救急車を購入する 鷺別支署に救急自動車を配置 北海道南西沖地震、M7. 8、室蘭地方震度4 日本損害保険協会より水槽付消防ポンプ自動車寄贈、鷺別支署に配置 鷺別支署配置の広報車を更新</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・釧路沖地震 ・北海道南西沖地震 ・自治体消防45周年記念
<p>1994 (平成 6年)</p>	<p>札内町380、登別養鶏ファームで火災(1,462㎡焼失) 消防団条例を一部改正(報酬・費用弁償) 胆振地方消防訓練大会において富士分団が小型ポンプ操法で第2位入賞 元消防団長、小林 富男氏「勲六等単光旭日章」を授与され「市功労者表彰」を受賞(逝去) 消防団長、阿久津 一郎氏「市功労者表彰」を受賞 北海道東方沖地震、M8. 1、室蘭地方震度3 三陸はるか沖地震、M7. 2、室蘭地方震度3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合福祉センター「しんた21」落成 ・川上公園野球場完成 ・登別中央ショッピングセンター「アーニス」オープン
<p>1995 (平成 7年)</p>	<p>岩手県沖地震、M6.9、室蘭地方震度2 阪神・淡路大震災(兵庫県南部地震)、M7.3 神戸市、震度7(戦後最大の大惨事) 死者 6,433人 行方不明 3人 負傷者 43,792人 全壊 104,906棟 半壊 144,274棟 一部損壊 263,702棟 (平成14年12月26日現在) 登別温泉支署配置の消防ポンプ自動車を更新 宮城県白石市と「災害時の相互応援協定」を締結 組織改革により消防署に2課4係とする (庶務課-庶務係、機械係・警防課-警防係、保安係) 登別市防災総合水防訓練に参加(千歳町北海道曹達株式会社敷地内) 元鷺別分団長、中村 正信氏「勲六等瑞宝章」を授与される 登別温泉支署配置の救急車を準高規格救急車に更新</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地下鉄サリン事件(死傷者5,512人) ・新市制実現都市(新潟県豊栄市・東京都福生市・三重県久居市・滋賀県守山市・山口県新南陽市)と「災害時における相互応援協定」を締結 ・地震観測点を鉾山町に設置 ・平成7年国勢調査 人口 56,892人 世帯数 21,259

年 代	あ ゆ み	出 来 事
<p>1996 (平成 8年)</p>	<p>駒ヶ岳噴火災害派遣隊を編成出動要請に備える 登別出張所を支署に昇格、庶務係、警防係を新設し2係とする 初の救急救命士誕生 北海道消防防災ヘリコプター応援協定を締結 室蘭・登別・伊達の「三市防災協定」を締結 白老町と「災害時における相互応援協定」を締結 当直司令制度試行開始 消防職員委員会発足 本署配置の救急自動車を救急救命士対応の高規格救急自動車に改造 救急救命士による特定行為の運用開始 元鷺別分団長、中村 正信氏「市功労者表彰」を受賞 機構改革により消防署に救急救助係を新設2課5係とする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・駒ヶ岳 54年ぶりに噴火 ・古平町豊浜トンネル崩落事故 ・0-157全国的に猛威を振るう ・北大付属登別分院閉院 ・日鋼記念病院災害拠点病院に指定
<p>1997 (平成 9年)</p>	<p>指揮車を更新。 大容量防火井戸を設置（鷺別町） 苫小牧沖油流出事故対策本部を設置 消防用ホース差込式に移行 登別市総合防災訓練に参加 （富岸小学校グラウンド） 緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練に参加（札幌市） 女性団員入団10人 高齢者緊急通報システム更新 梯子付消防ポンプ自動車（3.8m級）購入 室蘭市・登別市が室蘭ハイヤー協同組合と「災害情報の通報に関する協定」を締結</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福井県沖でロシアタンカー「ナホトカ号」重油流出事故 ・国道229号線第2白糸トンネル岩盤崩落事故
<p>1998 (平成10年)</p>	<p>登別市が社団法人室蘭市医師会と「災害時の医療救護に関する協定書」を締結 登別市が社団法人室蘭トラック協会と「災害時における応急対策用貨物自動車の供給に関する協定」を締結 登別市が登別郵便局と「災害時における相互協力に関する協定を締結」 大容量防火井戸を設置（富岸町） 元消防長（事務取扱）菊池 衛氏「市功労者表彰」を受賞 携帯電話119番分散受信方式開始 消防団機関員制度導入 水槽付消防ポンプ自動車（5.5t）購入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道央自動車道虻田IC～長万部IC間開通 ・冬季オリンピック長野県で開催 ・トルコ・台湾地震 ・日本初の脳死移植 ・釧路支庁中南部地震（M6.4）



水槽付消防ポンプ車（5.5t）

年 代	あ ゆ み	出 来 事
1999 (平成11年)	鷺別支署の救急車を高規格救急自動車に更新 大容量防火井戸設置(中央町) 医師の指示による特定行為24時間体制開始(日鋼記念病院ICU) 第28回全国消防救助技術大会出場(横浜市)ロープブリッジ救出 登別市が室蘭歯科医師会と「災害時の歯科医療救護活動に関する協定書」を締結 登別市が市内3郵便局と「道路情報提供に関する協定書」締結	<ul style="list-style-type: none"> ・国旗国歌法成立 ・東海村核燃料加工会社 で日本初の臨界事故
2000 (平成12年)	鷺別支署に救急救命士を配置する 本署の高規格救急車を更新 水難救助隊発足 大容量防火井戸設置(登別本町) 有珠山噴火により応援隊派遣(北海道広域消防相互応援協定) 第29回全国消防救助技術大会出場(熊本市)ロープブリッジ救出、ロープブリッジ渡過 組織改革により主幹、主査制導入(消防署) 消防庁長官から有珠山噴火災害応援派遣隊に「褒状」を授与される 消防団長、濱田 昭三氏 副団長、木村 幸一氏 登別分団長、和田 正二郎氏 富士分団長、八重樫 昭二氏 「市功労者表彰」を受賞	<ul style="list-style-type: none"> ・有珠山噴火 ・登別市市制30周年 ・平成12年国勢調査 人口 54,761人 世帯数 21,641 ・「褒状」を授与される
2001 (平成13年)	元消防署長、小西 直輔氏より500万円の寄附を受ける 元消防署長、小西 直輔氏「紺綬褒章」を授与される 登別温泉支署に救急救命士を配置 登別温泉支署配置の救急自動車に高度救急資機材積載、高規格救急自動車として運用開始 全国消防長会北海道支部予防委員会(登別温泉) 「有珠山噴火災害応援活動に対する功労表彰」受賞(北海道) 通信指令施設を更新	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪教育大学附属池田小で 児童殺害事件 ・新宿歌舞伎町雑居ビル火災 ・米同時多発テロ発生 ・皇太子妃雅子様、女児ご出 産
2002 (平成14年)	大容量防火井戸設置(片倉町) 北海道総務部総合防災対策室防災消防課防災航空室に1名派遣 広報車(消防団本部)更新 消防ポンプ自動車(富士分遣所)更新 副団長、伊藤 勲氏「市功労者表彰」を受賞 消防団員指導員研修へ団員1名派遣	<ul style="list-style-type: none"> ・住民基本台帳ネットワーク 稼働 ・首相初訪朝拉致5人帰国 ・国立登別病院閉院 ・中国広東省広州市と「友 好交流促進都市」の盟約 を結ぶ



年 代	あ ゆ み	出 来 事
<p>2003 (平成15年)</p>	<p>元消防団長、濱田 昭三氏「勲五等瑞宝章」を授与される 自治体消防55周年記念 平成15年北海道消防協会胆振地方消防訓練大会を開催（登別マリnpark） 登別分団がポンプ車操法で準優勝 北海道消防操法訓練大会出場（小型動力ポンプ操法） 登別市総合防災訓練大会に参加（千歳町曹達グラウンド） 出光興産(株)北海道製油所火災（ナフサタンク）のため北海道広域消防相互応援協定に基づき化学隊1隊派遣（延19名） 登別温泉支署配置の消防ポンプ自動車更新</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型肺炎（SARS）が世界的流行、死者700人以上 ・ イラク復興支援特措法が成立、自衛隊派遣へ ・ 十勝沖地震（M8.0）
<p>2004 (平成16年)</p>	<p>元副団長 故 木村 幸一氏「瑞宝単光章」を授与される 副団長、泉 一夫氏「市功労者表彰」を受賞 防火水槽設置（100t）上登別町 緊急消防援助隊へ登録（消火部隊1隊）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新潟中越地震（M6.8） ・ スマトラ島沖地震・インド洋大津波（M9.0）
<p>2005 (平成17年)</p>	<p>登別資源リサイクル協同組合からAEDの寄贈を受ける（AED 1台、トレーニングユニット 1台） 登別市総合防災訓練（千歳町曹達グラウンド） 平成17年度 登別市行政機構改革に伴い、グループ制導入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地獄谷が北海道遺産に選出 ・ 愛知万博開幕 ・ 平成17年国勢調査 人口 53,135人 世帯数 21,511
<p>2006 (平成18年)</p>	<p>登別支署配置の水槽付消防ポンプ自動車を更新 第35回全国消防救助技術大会出場（札幌市）ほふく救出副団長、深坂 敦氏「市功労者表彰」を受賞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 佐呂間町で竜巻発生死者9名、負傷者31名 ・ 能登半島沖地震発生（M6.9）死者1名、負傷者170名
<p>2007 (平成19年)</p>	<p>第36回全国消防救助技術大会出場（東京都）ロープブリッジ渡過 登別市大雨災害実動訓練（来馬川河川敷）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 郵政民営化スタート
<p>2008 (平成20年)</p>	<p>元消防団長、和田 正二郎氏「瑞宝単光章」を授与される 第37回全国消防救助技術大会出場（福岡県北九州市）ほふく救出 第34回主要国首脳会議（北海道洞爺湖サミット） 登別グランドホテルがアメリカ政府代表団の宿泊施設となり、消防・救急特別警戒（札幌市消防局、旭川市消防本部、岩見沢地区消防本部、桧山広域消防本部）に当たる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミャンマー大型サイクロン直撃（死者、行方不明者13万8千以上） ・ 中国四川省地震（M8.0）死者約8万8千人）




年 代	あ ゆ み	出 来 事
<p>2009 (平成21年)</p>	<p>登別市大雨災害実動訓練（美園公園） 第1回 消防・救急フェスティバル開催（ポスフル登別店）</p>  <p>屋外会場</p>  <p>屋内会場（女性団員による救急講習風景）</p>	<p>中国・九州北部に集中豪雨、死者31人 ・韓国釜山射撃場火災、死者15名（日本人10人含む）</p>
<p>2010 (平成22年)</p>	<p>登別支署の高規格救急自動車を更新 消防団富浦分団及び登別温泉分団カルルス班車庫新築 神奈川県海老名市から消防車両を寄贈される</p>  <p>海老名市から寄贈された消防車両</p> <p>第2回 消防・救急フェスティバル開催（ポスフル登別店） 消防団規則一部改正、女性分団発足 女性分団員 応急手当指導員取得 元消防長、内山 研二氏 第15回危険事務従事者叙勲「瑞宝双光章」を授与される 元消防団副団長、伊藤 勲氏「瑞宝単光章」を授与される 登別市消防本部・登別市消防団に消防庁長官から「竿頭綬」を授与される 緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練に参加（福島県郡山市）</p>	<p>・チリ落盤事故で33人全員無事救出 ・平成22年国勢調査 人 口 51,526人 世帯数 21,717</p>
<p>2011 (平成23年)</p>	<p>東北地方太平洋沖地震（東日本大震災） モーメントマグニチュード9.0、震度7宮城県栗原市</p> <p>死者 18,493人 行方不明者 2,683人 負傷者 6,217人 全 壊 128,801棟 半 壊 269,675棟 一部損壊 756,814棟 床上浸水 3,352棟 床下浸水 17,454棟</p> <p>(平成25年3月11日現在 消防庁災害対策本部)</p> <p>東北地方太平洋沖地震発生に伴う緊急消防援助隊（第3次隊救助隊5名・第7次隊救急隊5名・第10次隊救急隊5名・第13次隊救助隊5名）を宮城県石巻市へ派遣 山岳救助隊発足 第3回 消防・救急フェスティバル開催（イオン登別店） 天皇陛下行幸に伴う特別警戒体制（登別グランドホテルご宿泊） 登別市総合防災訓練：地震・大津波による災害想定（千歳町曹達グラウンド）</p>	

年 代	あ ゆ み	出 来 事
<p>2012 (平成24年)</p>	<p>津波や水害に備え消防団員に救命胴衣を配備（65着） 第41回全国消防救助技術大会出場（東京都）ロープブリッジ救出、ロープブリッジ渡過 第4回 消防・救急フェスティバル開催（イオン登別店）雨天のため屋内会場のみ開催 胆振地方支部消防団員現地教育訓練開催（登別グランドホテル） 全国消防長会北海道支部署長研修会開催（登別グランドホテル） 元消防団副団長、泉 一夫氏「瑞宝単光章」を授与される 暴風雪により送電用鉄塔が倒壊し、最長4日間にわたり市内で停電が発生 有限会社明豊建設から救命ボート1艘の寄贈を受ける IFCAA2012札幌「国際救助隊合同訓練」参加（救急隊）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界一高い自立式電波塔「東京スカイツリー」が開業。 高さ634m ・政府が沖縄県尖閣諸島国有化 ・JX室蘭の石油精製を2014年で停止発表
<p>2013 (平成25年)</p>	<p>本署配置の救助工作車更新 緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練に参加（苫小牧市） 登別消防マスコット「ばん平くん」誕生 命名者 菅原 光子氏 登別温泉分団副団長、高橋 清一氏 「市功労者表彰」を受賞 登別市防災総合訓練（富岸小学校グラウンド） 第5回 消防・救急フェスティバル開催（イオン登別店） 第21回全国女性消防操法大会出場（横浜） ※ 優良賞（団体）・優秀選手賞（1番員）受賞</p> <div data-bbox="911 728 1166 913" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="954 927 1136 1189" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="312 1301 892 1693" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="924 1301 1158 1693" data-label="Image"> </div> <p>登別消防創設100周年記念式典及び祝賀会（ホテル平安）180名参加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道東・道北地方暴風雪（ホワイトアウト等）により9名死亡 ・第37回世界遺産委員会は「富士山」について、世界文化遺産に登録 ・京都府福知山市の花火大会会場にてガスリン携行缶取扱い不備により、死者3名・負傷者56名の火災事故発生
<p>2014 (平成26年)</p>	<p>室蘭海上保安部と「登別市の各漁港及び沿岸部における水難事故等に係る相互協力に関する覚書」を締結 平成26年度 北海道高速自動車国道事故等対策訓練（登別伊達時代村駐車場） 登別分団長 高橋 茂樹氏「市功労者表彰」を受賞 第6回 消防・救急フェスティバル開催（イオン登別店）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・豪雨により広島県広島市で土砂災害が発生、死者74人・重軽傷者44人 ・長野県と岐阜県にまたがる御嶽山が噴火し、死者57人・行方不明者6人

年 代	あ ゆ み	出 来 事
<p>2015 (平成27年)</p>	<p>消防団条例一部改正（報酬・費用弁償） 登別温泉支署の高規格救急自動車更新 指揮調査車更新 高機能消防指令センター運用開始 元消防団長 成田 幸久氏「瑞宝双光章」を授与される 登別温泉分団長 相澤 定彦氏「市功労者表彰」を受賞 水難救助用ボート購入</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネパールでM7.8地震発生 死者約9,000人 ・鹿児島県永良部島の新山で噴火 ・倶多楽火山が噴火レベルの適用を開始 ・マイナンバー制度開始 ・平成27年国勢調査 人口 49,625人 世帯数 21,681
<p>2016 (平成28年)</p>	<p>副団長 川西 悟氏「消防庁長官表彰」を授与される 消防署配置の化学車更新 多機能型小型動力ポンプ積載車を鷺別分団に配置 組織機構改革により分遣所機能廃止 幌別分遣所を幌別分団・女性分団施設、富士分遣所を富士分団施設に変更 美園分遣所を廃止 元消防長 石谷 弘二氏 危険業務従事者叙勲「瑞宝双光章」を授与される 乾 時雄氏から登別市消防団に軽自動車が寄贈</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・台湾南部でM6.4地震発生 ・熊本地震でM6.5前震、M7.3本震地震発生 死者 50人 ・鳥取でM6.6地震発生 ・ニュージーランドでM7.8地震発生
<p>2017 (平成29年)</p>	<p>消防署登別温泉支署・鷺別支署配置の水槽付消防ポンプ自動車更新 圧縮空気発泡装置（CAFS）積載 消防庁長官から「表彰旗」を授与される 消防署配備の多目的支援車更新 北朝鮮が中距離弾道ミサイル発射 北海道上空通過（国民保護計画に基づき警備体制） 緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練（山形県米沢市）に救助隊参加 登別市消防団 元団長 深坂 敦氏「瑞宝双光章」を授与される</p> 	<p>九州北部豪雨 大雨特別警報が発令 死者37名、行方不明者4名家屋に被害</p>
<p>2018 (平成30年)</p>	<p>美園町 北海道名販登別加工工場・倉庫火災（焼失面積 1,295.97㎡全焼） 消防署配置の高規格救急車更新 北海道内初となる「登別市生きることを支え合う自殺対策条例」制定 平成30年度北海道消防操法訓練大会出場（ポンプ車操法の部・登別温泉分団）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市の生活困窮者向け共同住宅で火災が発生、11人が死亡。 ・大阪で震度6弱 ・西日本豪雨、死者220人超

年 代	あ ゆ み	出 来 事
<p>2019 (平成31年・令和元年)</p>	<p>胆振東部地震 登別市震度5弱 北海道消防広域相互応援協定に基づき厚真町へ救急隊及び支援隊派遣 (9月6日～10日4日)延べ11隊40名派遣</p> <p>消防署配置の水槽付き消防ポンプ自動車(本署1号車)更新</p>  <p>119番通報3者間通訳サービスの運用開始 対応言語:英語 中国語 韓国語 タイ語 ベトナム語 インドネシア語 タガログ語 ネパール語 ポルトガル語 スペイン語 フランス語 ロシア語 ドイツ語 イタリア語 マレー語 ミャンマー語 クメール語 (全17カ国)</p> <p>驚別分団長 渋田 徳之氏 「消防庁長官表彰」を授与される</p>	<ul style="list-style-type: none"> 胆振東部地震(M6.7)厚真町で震度7観測(死者42名、負傷者762名、建物被害15,088棟、北海道全域停電(ブラックアウト)) 新元号「令和」に改元 京都府にある京都アニメーションで、放火される事件が発生 人的被害71名、うち35名が死亡し、放火事件としては平成期以降最多の死者数 消費税が8%から10%に引き上げ 沖縄県・世界文化遺産の首里城で火災が発生し、正殿などの主要部分が焼失
<p>2020 (令和2年)</p>	<p>驚別支署配置の高規格救急車(救急3号車)更新</p>  <p>登別温泉支署と登別支署を統合した消防署東支署を開署(1本部1署2支署体制)</p>   <p>ホイールローダーを購入 東支署に配備</p>  <p>総務省消防庁より、救助資機材・小型ポンプ搭載多機能車(登別分団車)貸与</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの猛威により全国の小中学校や高校などの一斉休校を政府が要請。東京五輪・パラリンピックについても1年の延期が決定した。 梅雨前線が停滞した影響により九州を中心に記録的豪雨が発生した。河川の氾濫や土砂災害が相次ぎ、77人が死亡し2名が行方不明となった。

年 代	あ ゆ み	出 来 事
<p>2021 (令和3年)</p>	<p>消防署配置の広報車（広報1号車）更新</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災10年 ・東京五輪・パラリンピック開幕 ・大阪府大阪市の雑居ビルにおいて、放火による火災が発生。死者26名、負傷者2名が発生する。
<p>2022 (令和4年)</p>	<p>登別市総合防災訓練大会に参加（幌別西小学校・西陵中学校） 第50回全国消防救助技術大会出場（東京都）ほふく救出 富浦分団長 小竹 準一 氏 「消防庁長官表彰」を授与される</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県村上市にて製菓工場において、機械からの出火が原因の火災が発生。死者6名、負傷者1名が発生する。